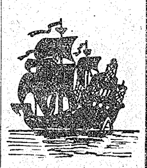
同窓會便り

No.2



御挨拶

晩秋の風寒い頃となりました。皆樣御機嫌如何でございますか。扨今度御待ち兼ねの同窓會便り第二號を御目に懸ける事になりました。又これに依つて遠く各地に居られます同窓生が一樣に母校を偲び、師の德を慕ひ、友を懷しむ一連のきづなともなりますならば、誠に嬉しうございます。第一號をお屆け出來ませんでした方々の爲に、一號にお元氣なお便りをお寄せ下さいました諸先生の御名を、左に記して置きます。敬稱略五十音順

阿佐美千代の、秋山マツ、井上トモ、井上あきゑ、伊原淸正、今井伴次郎、池田久光、小種忠治、落合トヨ、生出大壁、木下一雄、木下ふさを、久萬嘉壽意、小柳芳枝、小島君江、佐藤安子、榊原みや、島田いくよ、島田さく、須藤ちよう、高橋初音、武居芳成、武內貞子、寺尾滿里子、中村孝也、中澤美代、西田シマ、西山きく子、西脇焉石、萩の谷梅子、林キヨ、廣瀨雄、廣政チヨ、福田しな、法貴すゑ、堀內順之助、松崎こと、丸山丈作、皆見瑞穗、三代川千代、村田ミイ、森川勉、和田精一、蒲生さと、渡邊きくよ、渡邊周子、小尾虎雄　以上

無題

十二中　及川貞子

月光も近寄りがたく淺間燃ゆ

噴煙や步して夜霧にぬるゝ〻

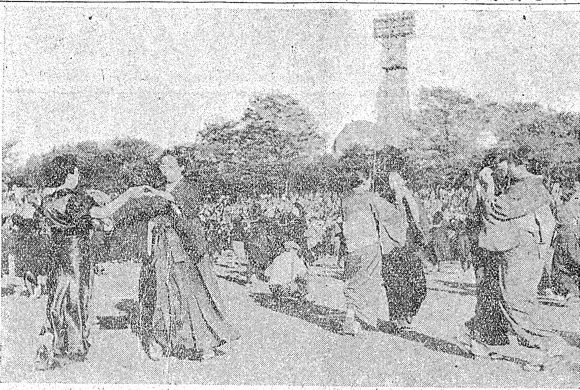
ほたるの火ふたゝびは見ず火山灰(よな)のみち

咲きつぎて芙蓉うつろはざり倦みぬ

白萩や紅濃きは野にあるを見む

國民體育大會に同窓生出場！

十一月三日の文化祭を飾る明治神宮外苑競技場の國民體育大會に母校第三運動會名物のコチロン出場!!　この大會に出場致しますのは概ね綜合團體にて、この樣に單一校の演技は全く例外の由、母校も近く名稱が更められます事故、第三の名に於てこの晴れの舞臺は空前絶後の出場なのでございます。母校體育科の石川、竹村、小貫、豐田諸先生には、首にかけても成功を收めむものと熱心そのものの御指導を給はりました。午後三時に出場で、古くは第三回卒業生（六十一歲）の方から本年度第四十六回生、及び全在校生を併せて千五百名が（卒業生は時代色を表して袴、和服、洋裝の色とりどりのあでやかさ、在校生は紺セーラーの制服にて）あの廣い競技場に見事に咲き誇つたのであります。



ダンス開始前に石川先生は颯爽と指揮臺上に立たれ、マイクを通じて全觀衆に懇切な解說をして下さいました。このコチロンは第三の卒業生が毎年の運動會に母校を懷しみ集つて愉しく踊る、四十數年來の傳統の花なのでございます。今日ここに集りました者の中には遠く世界の各國から引揚げて參りました者、全國各地から馳せ參じました者なども有り、同じ卒業生である娘孫の手を取つて踊る者もございます、又この中には一回の練習もなくここへかけつけました者もありますので、多少の間違ひはどうかお見逃し下さいと申されました。觀衆に多大の感銘を與へられました。皆觀臨のブラスバンドの指揮者は麻布にも數回來られて指揮をされた事も有るので、緩急の調子も殊にあざやかに舞ひ納める事が出來ました。又前後の行進は特に優秀なものでありました由、後でお褒めの言葉を頂きました。大いなる拍手の裡に觀衆席の聲を聞きますれば、卒業生がかくまで母校を慕ひ寄るには餘程立派な良い學校に違ひない、この樣に卒業生在校生が渾然一體となつてダンスを踊る樣な情景は一朝一夕には得られないものである、又四十年來の古い傳統のものが現代流行のスクエヤ、ダンスである事は何と素晴らしいことではありませんか、等々好評嘖々たるものがございました。ここに母校の名聲を一段と擧げ得ました事を皆樣どうか共々にお喜び下さいませ。

麻布の丘

木下一雄

第三高女が出來る前のあの笄ケ窪の土地は小笠原の原といわれた草原でありました。私の小學校はすぐそばにありましたから、友達と一緒によく遊びに出かけ、角力をしたり、馳けつこなどを致しました。小學校の運動會もこの原で行われました。聲もかれるばかりに應援したり、唱歌をうたいました。ところが間もなくその草原に第三高等女學校が美しく高くたてられました。私は本當に立派な學校が出來たと思いました。門の入口に大きな地球儀がおかれたのも私共の驚異でした。その頃第三高女の生徒と聞くと無條件に秀才で上品で美しい人と思っていました。それは私の小學校から中學校時代の頃の感想であります。

それから幾星霜、私はその第三高女の教壇に立つこととなりました。第三の先生には立派な方が澤山おいでになりました。創立以來の小林校長先生は、私にこういわれたことがあります。「この學校の一木一草は、みな私の手がけたるのであるから、一寸櫻の枝がいたんでも氣にかかる」と。まして先生は生徒の教育の上にどれだけ心魂をうちこまれたことでありませう。第三の生徒の傳統的な品格の高さは、私共にも誇りでありました。國語の中村蕙先生の歌に「乙女さび、黑髪ながき、ひとの子の、聲つややかに、われを師とよぶ」というのがありました。センターポールは第三の名物でありました。運動會の五年生のフアウストや卒業生のコチロンが、あの麻布の丘の夕陽にかがやいた情景がしのばれます。そして今も時折ラジオでフアウストの曲を耳に致します時、今頃全第三の卒業生がどこかで同じように、美しかった母校を追懷せられているのではないかと、ありし昔を深くなつかしむことがあります。

ああその麻布の丘に廢墟の月が上りました。この夏ラジオで土井晚翠氏の朝の訪問の放送がありましたとき、そのあとで「荒城の月」がきこえて來ました。何ともいえぬ哀愁のうちにも、何かしら強い力がこもつている樣にも感ぜられました。第三にも新しい存在が考えられませう。私共は生ある限り希望なく行動しなければならないように運命づけられているものでもないと思います。

ユートピヤの教育

中村孝也

第十七世紀の初め頃、日本金華山の東方三百八十マイル、北緯三十七度半あたりの太平洋上に、美しい金銀島があるという傳說が流布され、イスパニヤ、オランダをはじめ、後にはロシヤ、フランス・イギリスなど政府や商會が、大眞面目で探檢隊を出したのは、世界史上における一つの事實である。たのまれて少年少女のために、その物語りを書いている間に、自分もこの夢のようなユートピヤの國に行つて見たいなと思つた。凡そ金銀は不思議な魅力をもつて人を吸引する。人は金銀を尊重し、欲望し、追求し、爭奪しあう、國家より個人に至るまで、これに憧れ

これに追隨するのが人生の現實だ。それは金銀が不足で、十分行き渡らないからだ。それで鬪爭が起る。若し金銀が豐富で、滿ち足りる世界があるならば、貧乏人が一人もおらず、すべての人が富み榮えるならば、氣分は伸びやかになつて平和と、幸福と、悅樂と、光榮とが人生を領するであろう。私は今この國の學問研究と教育施設との事を考えながら、筆を進めている。秋の夜は長い。

（十二西　中村靜子夫君）

☆　☆　☆

舊職員御消息

大內脩弘

北多摩郡保谷町下保谷二一一

秋になると思出されるのは、校友會大會の事、運動會の事、その日が近づくと各部思ひ〱の準備は日毎に急がしく、講堂や教室には小使さんの力を借りて電燈のコードをひいて貰つて、時には外からおそばを取つて、家々には電話をかけて先生も生徒も皆張切つて、それから運動會の終つた後西山に暮れる日の名殘を惜しみながら落屑を火に燃やし、空にまたたく星を仰いで、あの頃のセイラ服の皆さんお達者ですか。

岡崎忠七

北區中十條一ノ七　十條中學校

十五ケ年間御世話になつた第三を、昭和二十二年四月に辭して、只今北區立十條中學校長として相變らず教育のために奉仕して居ります。戰時中に家族を信州に疎開させて、以來ずつとやもめ暮しで居ります。只今大宮市から毎日元氣で通勤して居りますから、他事ながら御安心下さい。

川村花野

世田谷區玉川等々力町一ノ二〇四

先生方、又卒業されました方々に御目にかかり、御消息も追々伺われよろこばしく存じて居ります。私は年は加えてまいりましたが健康はどうにか幸に保持致して居ります。孫を相手に日本語や英語のいろはの勉強、小さき庭の畑づくり、數羽の鷄の世話等、張り合のある私の日課でございます。戰災をどうやらまぬがれましたこの邊は俄かに人を增し、自然、雲雀の歌、すず虫の聲を樂しみしも過ぎし日となりましたが、幼稚園より大學まで近くに出來、種々の點便利になりました。この邊を御通りがかりの節には、なにとぞ御立寄り頂き度く、番茶でも入れ昔語りのしばしの時を頂けましたらどの樣に有難く嬉しく存じ上げますことでせう。

榊引友三郎

目黑區大岡山七五

長い間皆樣に御疎遠申上げ誠に相すみません。私昭和廿年四月戰災世田谷區の知人方に居ましたが漸く舊居にバラックを建てて歸り住んで居ます。勤先は依然神田女子高等學校ですがこれも戰災に遭ひ復興一方ならず苦心して居ます。家庭では子供成人して何かやつていますが、私はまた暇々には家庭菜園をやるのを樂しみにして居ります。併し中々上手には出來ません。時々第三高女の舊先生と仰光寮でお目にかかつたり卒業の方のクラス會などにお招きをうけて舊情を溫めていただきますのは誠に樂しみです。偏に皆樣と母校の益々　をお祈りいたします。

幸田成友

杉並區上荻窪一ノ三

（七十七歲）

近況お尋ねに預り恐縮に存じます。自分は步行愈々困難となり、一向外出致さず、從つて胃腸の働きも鈍り、配給の主要食物と雖も口にし難いものがあります。然し是等は寄る年波の致す所と我慢し得ますが、一讀書人たる自分として、ここ數年間、讀みたい書物の殊に外國の書物を自由に入手し得ない殘念さは、何としても我慢が出來かねます。先づは御返事まで。

五十嵐卯三郎

世田ケ谷區若林二二一

第三を辭して七年、今は世田谷の奧松陰神社の傍に土地の草分で二十五年の古株と成りました。身體は達者が自慢丁度お隣には三十四回かの川上其英子さんが鈴木夫人として住まはれるので始終のお話に昔を懷かしんで居ります。終戰後三年までは土に親しみましたが昨年から北鎌倉高等學校へ毎日通つてゐます。同校は荒川校長の下に木下ふさを、講中英太郎先生等と、御一緒なので殆ど第三そのままの氣持で居ります。通勤は往復とも大抵腰かけられて樂しい遠足氣分、校舍は丘陵の中腹線に包まれて小じんまりした赤瓦の學園電車からもよく見えます。御序での節はお立寄り下さい。

芝野六助

大田區田園調布二ノ八三一

皆樣御懷しう御座います。一度御目に懸つて緩くり御話が致したい。私を知つて下さつて居る皆は皆立派な賢母良妻に成つて居られませう。「あれ良妻賢母なんて、古臭い、そんな事時代錯誤ですよ」と仰しやる人もあるかも知れませんが、焉んぞ知らん、我等人間の道は其の時代に即した良妻賢母になる事で有ります。男女の結婚は畢竟此の爲めでは有りますまいか。是れこそ古今內外萬古不易の人間の道。私は此の確信を以て學生生徒を導いて居ます。

高橋安子

杉並區天沼三ノ七八七

御便り嬉しく拜見いたしました同窓會第一號を先日嬉しく拜見致しました。先生方の御近況を拜見御なつかしさ一入でございました。私もおかげ樣で元氣に都立武藏女子高校に勤務有元先生は麴町新制中學校長に御榮轉小碇先生と御一緒です。吉田小使さんもこちらに來て居りますものでいつも第三の延長の樣な氣がして居ります。武藏境にある。かつての都立十三で武藏野のおもかげをとどめた、田園の中にある校舍からは富士が眺められ、裏は小金井の櫻堤で御座います。こちら方面へ御出かけの節にはどうぞお立寄り下さいませ。

徳永八千代

廣島市吉島町五一官舍內

戰時中も其後も皆樣方を御偲び申さぬ日とてはございません。主人の職務の爲め戰時中は名古屋東京札幌千葉福岡瀨戶と轉々致し本年一月廣島に參りました。到る處で卒業生の方々の御溫情を受け身に餘る喜びでございました。ここ廣島は戰禍は轉じて平和都市となり着々と再建されつつあります。この地方に御出ましのせつは御立寄り下さいませ。

林正躬

杉並區三谷町七〇

終戰と同時に務めを止めましたが、其後友人の女子專門學校新設に協力したのを契機に今でもその學校（昭和女子專門）に出て居ります。お蔭で書物とも絕緣せず體も頑健で、毎日を無事に送つています。顧みて第三のことを思うと、生涯の黃金時代であつた感がして、六本木を通る度に懷しさに堪えません。同窓の皆樣の御多幸を祈ります。

丸山胤炳

福島縣安達郡小濱町小濱成田

第三を止める時、もう二度と教育界には入るまい、と考へて居たのですが世の中は皮肉なもので、只今では當地小學校の分教場に小學校一二年の鼻たらし子供を相手に、毎日を過して居ます。子供は昨年千葉醫大を卒業、目下インターンであります。

吉村ますを

兵庫縣御影局區內本山村中野　神戶女子藥科大學

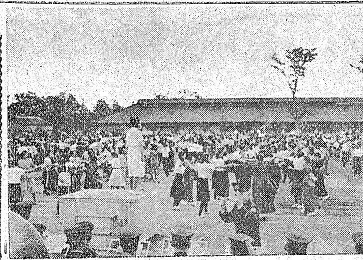
前略私は相變らず元氣で此頃は時々繪の展覽會などをも觀て樂しく暮して居ります。長男と長女は郷里福井で家を持ち（何れも孫二人）次男は大阪府豐中から神戶の學校に通勤來春は孫が出來る筈三家庭とも夫婦共かせぎで御座います。末女も益々元氣で今に就職も出來ることと喜んで居ります。

隨想

石川キクノ

第一號のおたよりをおなつかしく拜見し卒業生皆樣の各方面での御活躍を心からお喜び申上げます
　昭和二十一年九月この校舍に移つてから四度の秋を迎えて思ひ出は愈々深く感慨無量でございます
　今年は十月中旬に修學旅行も復活し、又去る廿三日（日）の運動會は校長先生の特別の御配慮によりブラスバンドの伴奏による盛大なものでございました事も夢のやうに存じます。狹い乍ら軍樂隊の樂の音に麻布の毎年の運動會を瞼に浮べて今日亦同じ山口、岡田兩樂長さんの指揮による運動の數々そして大橋の廣いグランドに溢れる卒業生の諸姉と在校生との「コチロン」の美しい姿を私は嬉し涙で見守りました。更にこれを十一月三日（文化の日）には八年ぶりに東京に展開されます國民體育大會に演じますことは在京の卒業生諸姉と在校の全生徒ではございますが、全國の皆樣にも何卒想いを寄せられて御參加御聲援下さい。當日はニュース映畫に收められる事と存じますので在校生は皆樣と手をとり合つて咲きほこる花「第三のコチロン」と晴れの舞臺におどり拔かうと毎日一入の練習でございます。本校の校地校舍の發展及び内容の充實はいろ／＼の機會に御承知頂いています事と存じますが、なほ多事多難何卒御力添へ下さいませ。省みますと私は徒らに年月を經てお恥しく存じますが大きな惠みの波に緩急ほど／＼にもまれて今日に至りました。お姉樣やお母樣と同じ癖を生徒の中に發見するのもなつかしいものでございます。
　四月十三日に戰災に遇いあの頃は專ら動員に從ひましたが幸い無事に、二十三年間の姑仕へをし乍ら娘一人を育て上げました。只今ハナ子も三歲の女兒を得て「子を持つて知る親の恩」など申して世話をしていますのを主人と眺めてはつくづく健康の有難さを感じてをります。なほ札幌には父、弟妹など健在で望鄕の念又切なるものがあります。全國の皆樣何卒この上とも御自愛御活躍の程祈りあげ近況御知らせの筆を擱きます

母校運動會



拾月廿三日大橋母校々庭に於て盛大に行はれました。

秋氣澄む快晴に惠まれて、同窓生も五百名近く集り警視廳ブラスバンド（昔の音樂隊）が何年振りかで瀏喨と演奏され、麻布の運動會の景をなつかしく想ひ起しつゝ運動會氣分を滿喫いたしました。最後には名物の卒業生のコチロン、これは近く國民體育大會に出場豫定の爲、在校生も交へ特に石川先生の御指導に依り熱心に練習を致しました。おほめやら御注意やらに與り、胸おど愉る快な一日でございました此日同窓會は果物、飲物の賣店を設けまして九千五百圓の收益を擧げました。

名簿作成について

戰後に確實な住所を御連絡下さいました方が、今日にて約三千名に達して居ります。名簿の發行を皆樣から頻りに希望されますので、來年三月を期して出版致す豫定でございます。印刷所とも交渉の結果一部送料共八十圓にて豫約を承る事に致しました。御入用の方は、御申込下さいませ。尚會費名簿代金御送付には、一番確實にて費用もお廉く濟みます振替貯金を御利用下さいませ。振替番號東京二八四八六號お知り合にて未だ御住所のお屆ない時は何卒お知らせ下さいませ。

支部便り

—關西支部—

何年振りかでなつかしい會報を手にして、先生方始め會員諸姉の御動靜が伺えて、支部一同悅んでおります。發刊に際し理事長並に本部諸姉の並々ならぬ御盡力を心から感謝いたしております。會報によつて關西在住の同窓生から當支部へ連絡をして下さる方が增えて來ります事を非常に嬉しく存じます。現在會員は春に倍加し約百名になりました。去る六月七日銀閣寺の疎水の畔「喜多君」の靜かなお部屋で春の同窓會を開きました。一回の田中姉から四十二回の長尾さんまで老若三十一名集り半日をのび／＼と娘時代にかへり賑やかに過しました。秋の集りは龜岡の谷口樣のお肝入りで來る十月十五日松茸狩りを決行することになつております。手柄ばなしは次回にゆづります。こうして關西支部の會員は春秋の集りを命の洗濯日として樂しんでおりますから、どうぞ御西下の節は是非臨時に御參加下さいますよう、お待ち申上げます。當支部連絡は

神戸方面　神戸市生田區榮町三丁目六七　西村まさ姉へ
大阪方面　大阪市東區北久太郎町一ノ四五　濱地場美子姉へ
京都方面　京都市左京區淨土寺眞如町二四　駒井壽子（關西支部）

—仙台支部—

九月十八日三越別室で同窓會を開きました。その節大脇樣から第一回同窓會便りを頂き、戰後始めて母校の樣子を伺ひ、支部員一同思ひ出話もはずみ、懷しの數刻を過しました。當日參集の方は八名十一月初旬、同窓會を開く豫定でございますが、戰災後住所の移動で連絡の取れぬ方もありますから、御在仙の方は左記へ御一報下さいませ。仙臺市米ヶ袋上町一萱場操（十四東）

—札幌支部—

去る九月二十六日、町村農場で終戰後初めての同窓會を致しました。福島縣教育知事の石原三起子樣の歡迎會を兼ねて、會するもの十三名、町村樣お心づくしのおもてなしに、北海道の秋の味覺を滿喫したり、歡談に時の移るのを忘れました。札幌郡江別町元江別町村農場内　第三會

終戰を境にして

鈴木幸雄

終戰を境にして、學校も少しは變つたやうに思はれる。その第一は、社會の變化が比較的濃厚に生徒に反映することである。善かれといつても惡い方かも知れないが社會的情勢の推移がそのまゝといつていゝ位に或る姿となつて學校にあらはれるといふことである。第二は、對外的對抗競技が行はれ始めたことである。バレー・バスケット・テニス・卓球・體操・陸上競技等。私個人としてはやはり新制高校になつても對抗試合にはあまり贊成しないが、しかし勝つ爲のみの試合、下品な野卑な試合でなく、女性らしさのない試合が行はれて居る現在、試合に品格を持たせ女性でなくては表現出來ない品位と技術とを示す試合に高めるためにも、第三の出場は止むを得ないと思つて居る。第三にと、これはお願であるが、第三は世上或る方面に噂されて居る如き、職員室でも生徒でもないことは、學校においで下されば、一番よくお分りのことと思はれる。卒業生の方々は、ふるつて學校におたづね下さつて、いろいろなお話をお聞かせ願ひたいと思ふ。

鎌倉最寄會

昭和二四年五月一二日鎌倉最寄會を八西林樣のお宅で開く、西御門のみどりの山にかこまれ靜寂な奉迎寺にて、御堂には靈驗あらたかな準國寶如意輪觀音を安置されて善男善女の御參詣引きもきらずと承りました。遽のお催しでございましたのでお出席の方々は十六人でございましたが不相變四方山のお話はいつ盡きるともしれず、折から鎌倉淨明寺地區より鎌倉市市會議員に立候補さる宮本せつ子樣がお近所までお出になりましたので席においで下さい婦人の立場より立候補さる抱負を語られました數日の後、皆樣の御支援のもとに紅一點、しかも最高點で堂々當選され今議場に於て大いに御活躍されて居ります。東京よりは七東の宮川樣も御出席下さいまして麗かな晚春の一日を和やかに過し、又の日を御約束してお別れ致しました。

五東　山本米子
一六東　野田靜

駒場もより會

十月廿二日駒場の大澤さんのお宅にて、長倉校長をお迎へして、澁谷世田ヶ谷及び目黑地區の同窓會が開かれ、十三名の同窓生が集まつた。先ず校長先生は、現在の敷地の三萬坪にわたる廣さを活用し、藝術科及び體育科で二年間にわたるヴオケーショナルスクールを加へた綜合高等學校設立の計画中學校小學校をも合せ、一部を特殊兒童の爲の硏究教授のコースに當てた綜合校設立の計畫等、大きな抱負を語られた。次に學校内部の事情に移り、生徒のレベルが他に比べて高く、上級學校への入學率も入學後の成績も他を凌駕して頗る良好である事、職員の陣容も充實させ、レベルを高める事に努力して居られる事、のお話があつた。思想問題について、第三はかなり急進的だから入學は避けた方が良いと、或る一部の中學校で取沙汰されて居るが實際はどうかとの同窓生の質問に、校長先生は急進的で危險だなどといふ事は全くなく、學校としては廣い見識を與へると共に、自主的公平な批判眼を養ふ事に努めて居られるとの事だつた。更に「どんな風が吹いても、自ら東へ行かうと思つたら眞直ぐに東へ進んで行く樣な人を造り度い」と力強いお言葉が有つた。次に仰光寮の今後の處置について校長先生の御意向は、相當の經費がいるが是非あれを駒場へ移し度い。そして同窓會のためにも大いに使てほしいと云ふ事だつた。同窓生皆で力を合せて母校の爲に盡したい。それには先ず名簿を整へる事から初めてしつかりした同窓會を再建しよう、と云ふのが集りの趣旨だつた。同窓生で母校の先生として御活躍の乾先生が少し遲れて見えられ、更に戰爭中及び戰後に於ける同窓會についての御報告も伺つた。出席者。三東中川。九中飯田。十東大澤。十中矢田部。十西十時。十二東宮地。十二中堤。內山。十二西日高。十七東川村。十八西野崎。二十六中松村。三十八北柴垣記

十一月十六日大澤樣宅にて九名集る。三十二南西條。二十一東德田。十二中堤。十二西日高。十七東川村。十東大澤。十西北澤。九中飯田。十二東宮地。川村樣の海岸生活の御經驗話を有益に伺ひ又德田樣より造花（カーネーション）の造り方を教へていただき回を追つて色々の花人形等の造り方を教へて頂き地區の資金をつくり各自の何かの時の備へにして行く事にいたしました。　宮地。

臨時會費について

四月の總會に於て御承認を得ました二十四年度の臨時會費（一口百圓）を未納の御方はどうかお納め下さいます樣お願ひ申上ます。
八千名の卒業生の內、昨年度をお納めの方は三〇〇名に足りませんでしたが、本年度は皆樣の御協力に依りまして今日迄約六〇〇名の方がお納め下さいました。
この會費收入に依つて、年間の事務一切、この二回の會報の編纂、印刷、郵税等すべての運營を致して參ります。同窓會の繁榮のために、何卒會員擧つて會費をお納め下さいます樣、切にお願ひ申上げます。

荻窪最寄會

五月二六日朗らかな日の午後、宮川樣のお招きに、先ずお背の高い四西鮫嶋（舟木）さん、お髮は白いが水々しい五西小泉（橋爪）さん、お足が悪いので杖をついて六東牧野（久野）さん、いつもお若い七西高松（永嶋）さん、女婿を戰爭で失われこぼされる七西唐澤（多田）さん、九西のあどけなかつた米山さんも今はおばあちやま、お元氣でキビキビした三四中森さん、おとなしい奥樣の二一東坪井さん、共立大學で御活躍の夫君の好伴侶たる七東宮川（岡田）さん、子供の疎開の折御目にかゝりお顏に覺えのあつた一五東温品さん、お醫者樣の奥樣の二三南豊嶋さん、それに五東の渡邊（好地）といふメンバ。宮川樣の厚きおもてなしに舌鼓打ちながら、宮川、高松樣兩人樣より母校及び同窓會の其後の樣子など伺い、懷かしい日ヶ窪時代を見出し樂しい第一回の會合でございました。

（五東渡邊）

☆　☆　☆　☆　☆

田園調布支部

六東　細川武子

戰災の爲めに、二十年を逆もどりして、又元の田園風景にかえつた、この田園調布附近にも又追々家も立ち並び途中でふとお會ひした同窓生の方々と「まあ御無事で」と御挨拶をかわす今日此頃、本部からのお話もあつたのでとりあへず東橫目蒲沿線を主として同窓の方々に御通知を差上げて、支部を組織する事に致しました。昭和二十四年三月十八日田園調布會館に幹部會を催し打合せの後約百名の會員の御住所が判明致しましたので六月十九日（日）午後一時から調布高女に第一回の集りを致しました。先生方に御案内申上げましたところ丸山、森川、芝野、川村、寺尾、竹內、島田の諸先生が御出席下さいましたので參會の三十四名樂しく昔に返つて第三時代の話に花をさかせました。春秋二回位は心置きなく集り互に助けあいたいものと次回をお約束して午後五時散會あと先生方は細川宅にお殘りいただき夜にまで及んで語り合いました。

成宗最寄會

九月に同窓會々報を理事の宮川樣から成宗の方の分だけおあづかり致しましたが急の事でどちら樣も御都合お惡く私共でほゝのお顏合せの集りを致しました。
メンバーは、矢守廣子樣（八中戸田壽榮樣（二十四東）鈴木榮子樣（二十七南）安藤登喜子樣堀口路子樣（三十一南）濱中寬子樣（四十一中）北浦モト子樣（三十六北）森淑子樣（四十四西）それに幸田（二十三西）の九人で、皆大いにはり切つて居ります。小さな集りでもお互に力になり合つて行けます事を何よりも嬉しく存じます。

（二三西　幸田）

同窓會の新しい歩みについて

乾須美

一月の末から六月迄、病氣で引こもつて居りました間、皆樣から色々御同情を賜り、わけて總會の日には特別の御配慮にあづかり、わざ／＼御見舞にお越し下さる等誠に有難くただただ恐縮に存じて居ります。
　戰後の同窓會はお互に助け合い慰め合い學び合う同窓會として昨年より出發しましたが、未だ數ヶ所最寄會が出來ましただけで全體から見ますとまだ／＼と云ふ所でございます。どうか會員皆樣の御協力に依つて、凡ての同窓會員がこうしたつながりを持つ事が出來ます樣、お骨折願ひたいのです。これ迄の同窓會の樣な記念日に集つて、昔語りをして校歌を歌つて歸ると云ふ會だけでは、私共婦人のつながりとしてはあまり意味がないのではないか、一層力を貸して欲しい樣な人はこの總會などには來られない。この狀態を何とかしなければと云ふ事で開かれたのが、仰光寮の授産所です。直接手を下された高松樣、杉浦樣中田樣のお骨折は、實に大したものでした。
　こうして初められた仕事も會員の多くの方々には距離も遠く、運賃も高く、十分に利用して頂けない。何とか歩いて行ける近くの人が手を取つて、着物等の內職の斡旋などがお互に出來る樣なものに同窓會のやり方をして行かなければならない。そして倘其會が出來れば夕方食事後、七時半か八時頃から集つて、會員の方又は近くの知名の方の教養、藝術、時局等のお話を伺つたり、古い會員の御子息と新會員との間に、樂しい清い御交際が初まる樣な組織になつたら、どんなに同窓會はよいものとなつて發展して行く事か、この組織が子供の幸福を守り、世界の平和を守る大きな組織の一部として共に力を協せて行く所迄いけたら、第三の同窓會も實に有意義なものになつて參りませう。それを目ざして進みたいと思ひます。
　そして仰光寮は全體としての仕事、總會とか又同窓會全體としての連絡事務、名簿整理作成、講習會、各最寄會の狀況報告、又は母校との連絡後援、新らしい仕事の企画等にし、役員も最寄會の中から推薦していける樣になりましたら、眞に民主的な運營が行はれ、自分達の組織として育て上げていけると思ひます。そう云ふ大きな立場に立つて、仰光寮の事も、同窓會の維持費の事も考へて頂き度いと思ひます。
　今こそ會員の一人々々が力を合せて、自分達の意志でこの同窓會を動かし行く時代が來たのです。これ等の事を實行して行く爲にも最寄會の組織は格好なものだと思ひます。そして眞に民主的な同窓會を作り上げて參りましょう。

◇　◇　◇　◇

私と洋裝

四西 東ケ崎三壽

猿の様な洋裝を着て札幌高女から轉校したのは明治三十八年四月日露戰爭の眞最中「此の異様な服裝を許すべきか」と教員會議の問題となつたとか。在學四年間輕々と樂しい生活を送りつつも優雅な長袖袴が羨やましく、只一組の和服を作つて貰つた時の嬉しさ。さて女高師入學となると左樣な服裝の者は教育者たるに相應しくないと流石主義に生きた先覺者の母も「娘の入學を取消して迄も」と引きさがり、「神つめまじめ」の四年間、更に續いた教育生活、大方洋服の着方も忘れた頃に突然の渡米、本場で洋裝八年間、もう和服は着ますまいと決心したのに此大戰爭、オーバーから靴迄娘に取上げられ終戰を迎へたのはモンペ姿、最近婆さん用コーセットを送つて貰ひ家の中丈け何とか三度洋裝、今はどちらを向いても洋裝ばかり、ことに上手に着こなした若い方々を見るにつけ實に萬感こもごも、それもその筈、あれからやがて半世紀になりますもの。

音樂のよろこび

三四中 玉木萃子

"心に太陽をもて、唇に歌をもて"と言う諺があります。私は心に太陽をもてる人こそ歌えるのである、その人こそ音樂を眞に感じ樂しむ事が出來るのであると思います。音樂というものの本當のあり方が分らず音樂など特定の人がやるものであると言う觀念で、事實、眞實なる音樂が一般に親しまれていないということは常日頃眞に遺憾に思つてゐるのですが、之は全く傳統的な教育法の誤りに外ならないのです。

日本のすべての家庭に、心を耳にし、耳を心にしたコーラスが鳴りひびく時に私の眞の理想が現われる事と信じて居り、一人づつでもハーモニーの絶對なる美しさを樂しむことの出來る人が增えてゆくことこそ本當に賴母しい事だと思つてゐます。そしてお互いが美しいものを美しく、正しいものは正しく率直に感ずる、ありのままの飾らない心となつて音樂の眞の喜びを味わい、ハーモニーで養われた溫い和合の空氣の中に愛情豊かな和やかな家庭生活を營んで戴き度いと切に願うのです。藝術そのものは神に奉仕する爲にこそ人々によつてなされ、育くまれるものであつて、一歩々々神に近づこうと努力するものこそ、その神より與えられたる偉業に携わるべきである。神の御心はすべての人間にその奉仕を求めて居られると思うのですが……。そこら道端にも電車の中にも商店にも、ささやかなる我が家にも人間の心如何によつて生きた藝術を發見することが出來ます。

そこで與えられた人間のすべての機能をそれぞれ十分に働かし、音の世界に於ては耳そのものの働きを最大に發揮して、人間の全生命を打ち込んで素晴しい藝術世界を築き上げてゆくことこそ、吾々の最も喜びとし念願としてゐる問題であるのです。先づ家庭の中に樂しいコーラスを育てようではありませんか!

一三東 馬田美子

わが蓮乘寺境内より御首切られたる藥師如來の出現あり。御首を作つて奉安申上げて間も無い時厨べの殘火にて危く火災に至らんとするところ、み佛の御告げか夜中フト目ざめて大事に至らず消しとめ得。

御首をしつらへ申し安置せる今日を尊きみ佛の像

あやふかりしくりやべの火にわが眼ふと覺めしは正にみ佛の慈悲

窓にまで燃え移る火を消し止めて息づきにつつみ佛に伏す

事ありし朝に額ちし足の跡拭くにし消えず日數久しき

み佛のみ足跡と夫の云い出でし言の葉をしもらち消し難し

靈驗を人には見すとみ佛の生れさす足跡と見るにけ寒し

御加護のみ足跡顯くさすみ佛とをろがむ時を涙流る

學問と家庭生活

三七北 大内節子

このごろ私はよく學問と家庭生活とが兩立するのかと驚きをもつてたずねられる。學問と家庭生活それはこれまで日本の女性には矛盾した事柄のように思われてきたし、これからもその考はなかなかぬけないであろう。たしかに今迄の女性の分野は大體において家庭生活に限られていた。またたとえ他の方面にその才能を伸ばしかけていた人でも、結婚によつてその芽をつみとられてしまうのが現狀である。そして女性は槪して家庭という狹い殼の中での生活におしこめられていたばかりでなく、た分滿足し生甲斐さえ感じていたのである。しかしそういう狀態で女性が人間としての特性を伸ばすことがどうしてできようか。むろん女性がそういう考え方をするようになつたのは、女性にたいする從來の學校なり社會なりの教育が影響を及ぼしている點も大いにあるに違いない。けれども女性にそういう教育を施すことを要求し、また女性をしてそういう生活に甘んじさせた原因は何であろうか。

それが現在の社會狀態であることは誰でも氣付いているに相違ない。たしかに現在の日本のような社會狀態のもとでは家事雜用を合理化したり、完備した托兒所施設によつて育兒の手間を省いたりすることは到底望めないのである。そしてそういう雜用が私達女性の向上心を麻痺させる最大の原因である。それゆえまず根本にある社會狀態を改善することなしには、そして家庭生活がより合理化されなくては私達は家庭生活とより社會的な仕事とを兩立させることは、とくに惠まれた人をのぞけば不可能であろう。私としてはそういう社會狀態の更に底にある根本法則を究明したいと考えて經濟學を選んだのであつた。

私が女性の無能力の原因は社會狀態であるといつたのは、しかし私達が社會狀態がよくなるまで仕方がないといつて安閑としていてよいということではない。むしろ私達は積極的にそれをよくするように努力しなければならないのである。燒失前の第三の講堂には正面に貞淑溫順と自彊不息との二つの額が揭げられてあつた。自彊不息の額は字が難しかつたり北側にかけてあつたりしたためか、私達はとかく第三の精神は貞淑溫順のみであるように思いがちであつた。だが私は、自彊不息にたいして貞淑溫順と同等のあるいはそれ以上の敬意を拂わなかつたことをいまやつと反省しはじめているのである。

バザーについて

十一月十二、十三の兩日母校にてバザーが催されましたので、同窓會としても些かなりとも協力致し度同窓會の店を設けました。人形、洋裝附屬品、紅茶、ミツゲン齒磨、携帶用糸巻、鼻尾その他の賣店を開き、二千五百圓の收益を擧げました。先月の運動會の折の賣店收益と併せて、その中より五千圓也をバザー協力の意味にて母校へ差上げました。

寫眞はバザー當日同窓會賣場へ御出での佐藤先生、乾先生(左より)

當日の賣店には同窓會役員及有志の方々賣子として立ち、次々に御出で下さる同窓の先生方に御買上げ願つたり、御珍らしい同窓生を發見しては思はず商賣を外にお話がはづんだり、仲々賑かでございました。

近頃の第三

在校生 水越陽子

"天下の第三"としてこんなに有名な私達の學校が輝く歴史と傳統を持ちながら民主々義の叫ばれる樣になつた戰後の社會に於てどの樣に變化してきたか今ちよいと足をとめてのぞいて見よう。

第一に感ずることは非常に皆んなが明るくなつたことである。あの六本木の校舍から今の大橋の校舍に移つて、まわりの運動場が廣くなつたせいか私達の心も何となく廣々として常に希望にあふれて潑溂としている。又、教育の仕方も前の樣に皆同じ賢婦人型に仕立てる樣な教育ではなく一人々々の個性を伸ばし得る樣な教育の仕方になつたということも、皆の氣持を明るくしている理由の一つかもしれない。又この校舍に移つてから運動場や先生方の關係でとても運動が盛んになつた。こんなことも私達の氣持を伸び伸びとさせる理由の一つだろう。しかし戰後のこの亂れた社會の波に私達がのせられて亂れてきたことも又否めない事實である。明るさの度が過ぎて不作法となり禮儀しらずとなり、自由主義をはきちがえて自分勝手となり無責任となつた。何でも意見を言えという教育が、先生に對し又親に對して口答えをする樣になつたし、先生を先生として敬えず、お友達の樣に扱い、そこに何らの生徒らしさをみることが出來ない樣になつてしまつたのも、戰後の社會の生んだ悲劇であろう。選擇授業になつてからはお掃除も亂れ、授業中の態度も第三の生徒らしくないものとなつた。この樣な美に對する鈍感さや禮儀をしらない態度は前の第三には決して見られないものだつた。どこの學校でもそうかもしれないが、殊にこの第三がこんな風に變化して來た理由としては、あの懷しい四十數年私達を育ててくれた北日ケ窪の校舍が燒けてこの全く違う校舍に移つてきたことや、敗戰という事實によつて急激に變化して行く社會の中に放り出されたことや、其の他男女共學とか、ホーム制度とか、色々の教育制度の變化等、こまかいこと色々あるに違いない。何しろ今の第三を一口でいうなら、若人らしいが女らしくないとでもいつたらいいのぢやないだろうか。

クラス會ダヨリ

みどり會

柳原みや

五月廿五日母校仰光寮にて開催。伊東優先生の御鴻恩を受けて卒業いたしました三回東、八回中、十三中、十五中、廿五中、の六級綜合級會みどり會は、先生の御寫眞を正面に、御燒香も思出しめやかに御後嗣御夫妻とその御子樣方を中央に、たつぷり懷舊談にふけり、やがていつしか學生時代に立ちかへつて齡六十路の三東を始め起ちつ居りつ食べるしやべるの有樣に、御寫眞の先生も何かにほゑんでいらつしやつたらしく、初夏の長い日影も西にいざよふ頃閉會。先生を御送り申上げた後は淋しくせめてと次回を約して惜しき袂をわかちました。

七回東級クラス會

どんよりした梅雨空の六月十八日宮川姉のお宅でクラス會を催すいつも學校の御都合でお出でになれない高島姉に今度は是非と特に土曜を選んだ甲斐あつて御遠方にも拘はらず定刻前からお見えになり續いて竹橋、小林糸子、赤堀、三好、井上、吉村、三吉、岩瀬、安藤の諸姉(到着順)のお顔も見え殊に井上樣は昨夏御誕生の初孫さんをお連れになり、よいお婆ちやん振りを見せられ、又北海道の町村姉も折よく御上京中で御出席一同を喜ばせて下さる、お晝には各自持參のお辨當を宮川姉樣好意の數々の御馳走で頂き和かに歡談、尙ほ宮川姉は今度同窓會の理事をお引受け下さつたので仰光寮の事や其他のお話しあり、最後にさつき咲き盛るお庭で記念撮影をなし盡きせぬ名殘りを惜しみて散會、出席者は宮川姉と私とを加へ十三名といふ盛會であつた(小林政記)

うつし世のかかはり事も打忘れ久にして逢ふ友と語らふ　政子

九回東級會の記

十月十四日赤坂檜町の古川樣のお宅にて開催、丸山先生初め、久保林田星野蒲原大久保圓谷古川山口の九名集合、第三時代に若返つて大いに語り、樂しい一日を過しました。次回は珍らしい方の御參集を希望して居ります。地方の方も御上京の時は歡迎會を致します幹事迄お知らせ下さい。

何左記の方々の住所御存じの方はお知らせ下さい。

松崎、大口、本田、赤坂、山本、高橋、高辻、西田、徳田、

十三回東

宮川庚子

思ひ出しても恐ろしい戰爭を生きぬいて、父こうして會報が出るといふことを御同慶に存じます。

戰爭前には「あけぼの會」と云つてゐたクラス會を、戰後はその始めて會合した日を記念して三水會(これは第三水曜日)として毎月會合してゐます、在京の方はもとより、この日をめがけて地方から思いがけぬ方が見えます。

世の中がすつかり變りました、クラス會も只會つて遊ぶといふのではなく、すつかり變つたこの新らしい日本にくらすには、その考へ方や生活をどう切りかへたらばよいか、そして吾々年齡のものが若い人達から敬遠されてのけものにならずに、何とかして若い方達の何かの役に立つてそしてゆくゆくはよい立派な日本をつくるために役立つのにはどうしたらばよいかを話し合つて居ります。

むつかしい世の中になりましたしかしその反面に働きばえのする時代とも考へられます、會員皆樣の御健闘をいのります。

十四中級會便り

笹村初見

佐藤先生は御郷里で御健在。御消息あつた皆樣御健在で何よりです。丹羽樣獨息子工大入學。瀧口樣北海道に孫二人。伊東樣今秋初孫の豫定。松崎樣山口樣御子達の爲め御健闘中。水町樣令息令孃御成人。島村樣二令孃御兩親の家廻ゝ爲御忙しい由。西川樣獨居でも丈夫。永井樣稻葉樣元の所へ新築。渡邊樣孝行したりされたり。片平樣令息開業し今はよき祖母樣ぶり和田樣長男御役人。毛利樣令息東京でお勤め。種村樣長女女專卒他男子二人。笹村樣息子とも三人無事。他皆樣御便り待ちます。

十六東

武内貞

終戰後どうやら心も落着き、毎日の生活に希望が持てる年になつた時、先づ案じられるのはなつかしい友の上でした。廿二年春第一回級會(於東宅)出席者豊田、神崎、坂東、鈴木、根岸、馬場、池田、東、武内この時内村初瀬樣、根岸樣御主人の御他界を承り、心から追悼致しました。第二回廿三年春(於馬場宅)出席者、柳、坂東、池田、鈴木、神崎、根岸、馬場、武内、第三回廿三年秋(於武内宅)出席者四名、第四回廿四年春(於仰光寮)出席者五名、日頃のなやみや喜びを友と分ち、明日への希望を深め得るものは級會でございます。現在の生活は幾多の惡條件があり主婦にとつて非常に外出し難いので御座いますがせめて級會だけは何とかくり合せをつけて集り度いものでございます。地方の皆樣はずゐ分長く御目にかかる事が出來ずことになつかしく存じますが御變りございませんかどうぞ御近況なりと細々御しらせいただき度く級會の折に皆樣にお傳へ致します。字數に制限がありますので簡單ながら右級會便りを記しました。

十七回西級

十七回西級の皆樣おなつかしく存上げます。漸く世間も落付いて參りましたので折々級會も開ける樣になり有難い事に存じて居ります。二十三年四月十一日新谷樣方、二十四年三月十四日長谷川樣方、同五月二日關樣方、そして六月廿七日には久々にて仰光寮で今井先生島田先生をお招きして種々御話伺はせて頂きました。お互に孫の話が出る樣な年になり一入第三時代のお友達や先生がおなつかしく今後共一層御集りの機會を多くしていよいよ多難の人生を勵まし合ひ助け合つて參り度と願つて居ります。何卒皆樣協力下さいます樣尙地方の皆樣御上京の節は面倒がらずにその都度御連絡下さいませ。歡迎クラス會を開く事にして居りますから。では御大事に。結城惠子

二十三東便り

小場瀨(森)春子

皆見先生、戰火に全燒して女學校時代の友達の御親切に甘え今日に及びました。長男本年結婚。次男日本ビクター勤務。三男高等學校三年。角倉(磯村)主人國立國會圖書館に勤務、二男二女の多忙な生活。荒井(伊藤)主人は三和銀行事務所長。山梨(加古)滿四年の疎開生活から切り上げ親子四人無事。大塚(玉木)終戰後滿洲で色々な目に會ひましたが只今は私の兩親と四人暮し。藤田(菅野)主人は建築家三男一女と養鷄に畠作りに。西脇(三上)四人の子供と歌を歌つたり寶塚の話をしたり。藤田(廣田)家を求め親子三人水入らずの生活。酒井(持塚)一人娘は都立第八高在學。大石(本山)子供は大學生になりました。伊藤(岩倉)娘の婚約者を加へて親子四人で平和に過して居ります。小林(牧野)十五年振りに東京にもどり二の男の子も高等學校に小場瀨(森)四人の子供に圍まれ惠まれた生活。御便りのない方々。全然御住所も明な方々如何御過しでいらつしやいませう。

廿四南級會便り

中島藤枝

新春一月廿三日仰光寮での戰後第一回級會は珍らしく惠まれた陽氣に木下先生を中心に集ふ者十九名。誠に盛會でした。先生には目出度く五十四歳を迎へられいよいよ御健かにお孫樣御相手に御幸福そのものの御生活を外には再び女子教育にと北鎌倉女高で御精勵の程私共の誇りと存じます。昔に變らぬ若々しい笑ひさざめきは春早々道灌山に花を咲かせ宵闇迫る頃迄。

尙次回は先生御發案にて私共姉妹五級合同級會を準備中。お樂しみに。

廿五回東級クラス會便り

四月十七日丸田樣宅にて、出席者、高田井田正田石橋山田井原丸田茂見、十月二日廿週年會仰光寮にて。出席者、石橋井原井田渡邊長谷川山田淸水丸田中村小林茂見戰爭による樣々の變化のために御消息不明の方が多く、會合の度に御案じしてゐますから、東京都目黑區自由ケ丘四六、石橋千鶴子樣宛御近況御知らせ下さい。又地方の方御上京の節には御一報を。次期クラス會、明年一月頃井原樣宅で開催の豫定でございます。（茂原）

卒業廿週年記念學年會の記

廿五東、中、西、南合同の學年會を卒業後廿年を記念して想ひ出の仰光寮で十月二日（日）開催。幸ひ好天に惠まれ諸先生はじめ御出席者多く誠に盛會で御座いました終戰後初めての方は云はずもがな廿年振りでお互にお會ひする方が多く、昔日を省み且つ過ぎ去つた廿年の歲月を想ひ、感慨深いものが御座いました。小さいお子樣連れの方も多く仲々賑やかな又和やかな會でございました。先生方から順にお話を伺い、懷しのお山に並んで記念撮影も致し、其後又歡談にお名殘りは盡きませんでしたが午後四時頃校歌を合唱散會致しました。御出席者名は左に。順序不同、敬稱略、カッコ内は御舊姓、櫛引、林、今井、西脇、石川、玉井、三代川、木下芳江、島田諸先生、東＝茂見（稻川）井原（穴戶）井田（秦）渡邊（伊井）中村（井手）長谷川（唯根）山田（河井）丸田（小森）淸水、小林（三谷）石橋（津田）以上拾壹名、中＝吉村（大內）中島（熊井）小熊（篠本）穩田（日下）吉村（小野澤）竹內（柴田）以上六名、西＝澤田（詫摩）大沼（鄉）深井（關原）直江（小倉）山本（樺島）新井（宮城）佐野、深澤（林口）關口（植草）以上九名、南＝長谷川（岩田）山本（岩崎）檜山（中山）角（酒井）中村（福永）一ノ瀨（永峯）鶴岡（奥村）堤（山下）平野（河井）膳場（杉浦）高木、田上（矢島）海輪以上拾參名

東　石橋記

廿九回東級

昭和廿四年十月九日（日）に久しぶりのクラス會を仰光寮において開きました。當日は相憎雨天でございましたが遠路蒲生先生、三代川先生も御出席下さり午前十一時より午後四時すぎまで時のたつのも忘れて樂しく語り合ひました。出席なさつた方は武藤（杉山）安田、上田、加藤（法元）橋內（山岡）の五人でございました。次回の時は多數御出席いただきたうございます。

橋內記

三十回西級

三十回西級では十一月五日待望の級會を仰光寮で渡邊きくよ先生を御圍みし開催致しました。先生始め皆樣ちつとも御變りなく、中川、伊勢、岩田、小野、岡村、井上、齋藤、藤田、田崎、安田、北村みち子、山根、小谷、谷川諸姉が次々といらつしやる度に歡聲をあげて御迎え致しました御連れになつた御子樣方いつの間にか仲良しになつて樂しそうに走りまわつていらつしやいました。御缺席の御親友方の御消息も伺い得て十年振りの級會は晴天にめぐまれ誠に盛會でございました。どうぞ次回はもつともつと多くの御出席を期待致します。（南里）

卅四中級會便り

下田敎子

新綠の五月廿九日、懷しい仰光寮で三代川先生をお圍みして、久し振りにクラス會を開催いたしました。參集者は、宮原（舊姓高橋）樣、武內（武田）樣、吉井（成田）樣、森（萩原）樣、三竹樣、饒村（湧井）樣、それに私を加へた七名の外に、先生、宮原樣、吉井樣、武內樣がお連れの坊ちやま孃ちやまが八名、ささやかながら賑やかで樂しい集いでした。

三十八北級會便り

齊藤節子

めつきり秋の色が濃くなつてまゐりました。皆樣御機嫌よう御過しの事と存じます。久々にて懷かしい北級のクラス會をと云ふ事で御暑い最中でございましたが丁度山口からはるばる御上京中の小河樣もいらつしやるので、加藤樣に御世話いただき、去る七月十七日十一時より仰光寮に於てクラス會を開きました。いつも程の御出席はございませんでしたが、御子樣連れの方々も交へ十四五人は御見えになり、風通しのよい御部屋で半日を心温る思ひで過させていただきました。當日缺席の方々でも御葉書拜見いたしまして御互の御消息も分り、ほんとうに喜ばしく御懷しい限りでございました。池田先生がずつと長野の方に御住まひなのでお出で頂けないのが殘念でございましたが御差支へない方々揃つて長野まで御尋ねしてはといふ御相談もございました。又の御集りを樂しみに致して居ります。

三十九南級會便り

角間榮子

春秋二回の南窓會の集ひも今春は新宿中村屋で開催致しました。阿佐美先生には御出席頂けませんでしたが、相變らずの御元氣さで御家庭內の御仕事に御活躍でゐらつしやいます。御顏ぶれは御常連が十三人、半數の方々が可愛いお子樣を御連れになりよきママさん振りでございました。話題は世間話、學生時代の思ひ出等に花を咲かせ賑やかな會でございました。中にも別れて後も變らない友情の尊さをしみじみと感じ會だけは細く長く何時までも結び合つて參り度いと念じ、皆樣の御幸福を希つて筆を擱きます。

四十一北級會便り

杉本隆子

烈しい空襲と共に卒業し、終戰後の混亂を漸く乘り切つた私達は第何回目かのクラス會を開きました、九月十八日思ひ出多い仰光寮でした。

久しぶりに無邪氣な女學生にかへり、お友達が一人御見えになる毎に、どやどやとお玄關に飛び出して大騷ぎでお迎へ致しました。伊坂さんや小關さんのやうに卒業後始めてお會ひする方もあり、お話も心から打ち解けて、本當にあの時ほどお友達が懷しく有難いと思つた時はございません。當日いらつしやいました方々のうち、鵜池さん、石井さん、佐倉さんは專問學校を御卒業後お勤めでいらつしやり、吉田さんは早大佛文科、岩澤さんは藥專に御在學中と伺ひました。山越さん、納富さん、二宮さん、青木さん、赤坂さん、福田さんも御元氣で御見えになり、小野さんは十月七日に放送なさるさうでございます。溫室の樣な第三を出で、變化の多い辛い四年間でございましたがそれ丈に御話も盡きず、とうとう御晝前から夜の七時過ぎまで階下の御座敷で御話し通してしまひました。終りに小野さんのソプラノで〝月の歌〟や〝椋のしげみ〟等を合唱いたしました時四年振りのコーラスをこんなに仲良く、そして覺束ないながらも合はせる事が出來るやうに育てて下さいました第三の先生方、殊に橋田先生に感謝の氣持で一ぱいでございました。神奈川縣に御住ひの田村先生には御住所がわからなくて大變申しわけない事を致しました。この次には是非先生を中心に集りませうと話し合ひました。

飯島（平福）さん、波多野（上林）さん、竹內（山下）さん、中北（川並）さん、米本（高山）さん等御結婚組は揃つて御缺席で殊に佐々さんには御新婚の御話を伺はうと樂しみにして居りましたのに大變殘念でございました。片山（淸水）さん、中邑（森田）さんは岡山より中村さんは秋田縣より皆樣にくれぐれもよろしくとの事でございます。

四十二中の皆様へ

松井宇留野

懷かしい道灌山の木立に蟬時雨する八月二日私達四十二回中級のクラス會を仰光寮で催しました。當日は講習の爲御上京中の西田シマ先生が、忙しい日程をお繰合せ御出席下さいました。ささやかな會ではございましたが、御集りの方々は久しぶりに昔に返つてそれぞれの思ひ出に打興じました。御出席は、安藤、伊坂、井手口、大塚、加倉、草河、小菅、篠原、高橋、田幸、田中、富田、堀口、吉田（中野）の方々でございました。次のクラス會は、篠原樣、田中樣に御世話を御願ひする事になりました。

四十三回東級

岡田耀子

私達は慌しい卒業の後、級會を開くこれといふ動機もないままに三年の月日を經過して居りました此度、皆樣の意向を伺ふだけでもと思い立ち、仰光寮にて開催したのでしたが、何分始めての試みとてどんなものになるかと案じて居りましたが、お勤めをしていらつしやる方に皆か「どちらへ？」とお尋ねすると「あぶく會社よ」「あぶく？ぢや石鹼の會社？」「プッ、マサーカ」等々云ふ會話が取交され、長い間別れてゐた私等ながら、學校時代の氣分のまま樂しい一日を過す事が出來ました。

高等科第廿四回生便り

九月廿五日素晴らしいお天氣に惠まれ久し振りに仰光寮に集りました。先生も御子樣をお連れになり和やかな空氣に日頃のせはしなさから離れ學生時代にかへり、命のお洗濯でもした樣な氣が致しました。何年ぶりかで御目にかかる方達もあり體驗談に思ひ出に御話は盡きません。唯一つ燒け殘つた仰光寮を私達の心のより所としてお骨折り下さり、氣持よく使はせて下さいました事を心から感謝致して居ります。

仰光寮について

道灌山を前に仰光寮は昔のままの姿にて樂しい集ひの家になつて居ります。十一月六日には舊職員の方々が秋の一日を樂しきお集ひに過されました。七十路を越されました森川勉、丸山丈作、法貴すゑ子、藤井初太郎の諸先生を初めとして、中村孝也、今井伴次郎、秋山マツ、原口あい、木下一雄、萩の谷梅子、寺島以登代、阿佐美千代の、寺尾滿里子、松崎こと、玉井きみ、横山粂子、木下ふさを增見瑞穗、渡邊きくよ、高橋安志水興、三代川千代、小硯松次郎中村邦雄、田賀美代子、島田さくの諸先生でございました。

クラス會も益々盛んに催され、十、十一月の會合を御紹介致しますと二五回學年會、二三西、二九東、二一高等科、一三東、十七高等科、三九東、二乙、三六中、三〇西、三〇南、三一學年會、三七南、二六中、三四中、の方々でございました。

前號にも申上げました樣に、クラス會用お茶器の用意あり、電熱にてお湯は沸します。會場費として一度一人拾圓を頂戴致し、これにて今春以來藥鑵大小、土壜、庖丁洗桶ボール、金網ざる、コップ二ダースを購入致しました。前以つて御申込み下さいまして、せいぜい御利用下さいませ。

役員紹介

理事長　長倉邦雄、理事　宮川千代（七東）　宮地華（十二東）　山本順（十三東在仰光寮）　原田淸子（二二南）　湯淺雅樂子（廿二西）　森麗子（三四中）以下は現在母校職員　乾須美（二三西）　善方みよ子（卅一西）　佐藤浩子（三五東）　奥野君子（三六南）　林松子（卅七西）　以上十三名

評議員　今井伸子（四西）　沖光子（五西）　藤森つた子（六中）　中田辰子（六西）　高松文子（七西）　星野榮（九東）　久保シゲ（九東）　早川凱（九西）　大澤若枝（十東）　落合雅子（十東）　堤イク子（十二中）　杉浦キヨウ（十三東）　田邊春枝（十三東）　小柳芽枝（十六東）　新谷蕙（十七西）　岡東ヨシ（十八中）　三代川千代（十八西）　板津ツル（廿二中）　三浦千代（廿三南）　梅田靜子（二三南）　遠藤ミチ（廿四西）　池田園子（廿六南）　五十嵐一枝（廿七中）　南里喜美子（卅西）　牧村豊子（卅一西）　吉田ミリエ（卅六中）　柴崎美智子（卅九中）　二宮澤子（四一北）以上が役員でございますから御承知置き下さいませ。

同窓會に御連絡の折にはお忘れなく卒業の回數級名、新舊姓を楷書にてお書き下さいませ、回數級名が御不明の場合は、卒業年度及び擔任の先生の御名前をお記し下さいませ。

東京都麻布局區內北日ケ窪三七　仰光寮內　同窓會

母校　東京都目黑區上目黑八丁目六六〇

理事一同誠に不馴れにて御期待に添ひ得ませぬこと　どうぞ御許し願ひます。尙ほ御注意御希望など御聞かせ頂きますれば一層幸いに存じます。

昭和廿四年十二月

この欄は同窓生各位の經營されるお店ですから皆樣せいぜい御利用なさつて下さいませ

五西　中村泰子

中野　星岡　中野區城山町三一　電話中野（38）〇〇七二

六東　松崎こと

コロンビヤ洋裁學院　院長　松崎こと子
第一校舍　豊島區池袋二ノ一一四五　舊豊島師範裏省線西口下車三分
第二校舍　武藏野市吉祥寺二〇二二　省線北口西え一丁

三〇南　佐藤幸子

旅館　高輪幸樂（元綠風莊）　港區高輪南町二十八　電話（49）〇五五六・四七四一・四七四二

一一中　黑川算子

參議員黑川武夫氏の　菓子司　とらや　港區赤坂表町　電話赤坂（48）〇六一四

一五西　河野愛子

新宿　むさしの館　電話淀橋（37）〇五二〇・一四二三
地下室（パーマネント・食堂）
クラス會には晝食用意
映畫サービスいたてます

三五東　椎川環

新刊書籍雜誌　有限會社　誠志堂書店　港區麻布六本木（交叉點）　電話赤坂（48）三〇五一・三〇五二